

伝えたい

戦後80年 過去から未来

伝えたい記憶と言葉

小松房友さん

78

諏訪市四賀

◇戦争の話(戦時中の話は、知る由もないので、諸先輩より聞くとして我は割愛する)

私の父も戦争の経験はあるが余り戦地の話はしなかった、父の兄は二十才で戦死している。次男である父は復員後兄に代わり家を継いだ、伯父の戦死が無ければ、母との出会いが変わり私は生まれていない。人との関わりや繋がりが変わってしまい其々の人生を変えてしまうのが戦争と言えるでしょう。

私の母は、あ野麦峠の時代に尋常小学校卒業後すぐ糸取りに出て苦労したと聞いている。父の姿を思い起こすに、冬の土間で米の供出用の俵を編んでいた、錘を前後に垂らし稲わらを一掴みみずつ揃えて編んでゆく

米の供出



自宅に残される戦中、戦後のさまざまな写真や帳簿などの資料と小松房友さん

のです。今では縁起物で見られたのである。の事が無い。

◇今

令和の米騒動と言われている、戦中・戦後の物品統制下、農家でも一人当りの米飯を計算し(自家消費分)残りは供出させ

田も畑も等級が決められて反当収量がきめられた。「昭和の大検知か」米はもとより、大根も反当〇〇貫目採れるはずだ

ある。その他の作物も...。当時の肥料は下肥と落ち葉・刈草で

した、反当(10a)米収量六俵二斗五升、現在は約十俵、約600kgくらいです。

◇戦時統制

保有米の計算(男子は日に4合、女子3合4勺)、今と違い食べる物は他に何も無い時代に、

米作の戦時統制

11歳から60歳まで
男子 年14斗6升(3.6俵)
女子 年12斗と1合

65歳以上
男子 年13・1斗
女子 年11・3斗

等々、細かく決められたと聞いています。

重労働で今の倍の時間(朝早くから日が暮れる迄、3食米だけ食べて)働いた。米は味噌に醤油にもまた物々交換でいろいろの物に変わった。

◇昭和21年追加供出米発動

我が家では一月四日に二斗五升一合の追加供出が命ぜられた。四月十三日にも追加が命ぜられ、合計33俵から37俵の供出割り当てになりました。昭和23年には、10月28日早出し供出が命ぜられ、指定日まで供出割り当ての8割を供出せよである。当時は十月末から十一月初めが収穫取り入れの時期で、適期刈りでなく収量が減っても供出させられたと伝わる(父の記録)。
※原文を尊重して掲載しました。